

# 2023（令和5）年度の事業計画書

2023（令和5）年4月1日～2023（令和6）年3月31日

NPO 法人育ちあいサポートブーケ

## 1 事業実施の方針

### （1）子育てをめぐる大きな変化をふまえて

「共働きでの子育て」の標準化、「父親の育休取得」浸透の気配など、ここ数年のじわじわとした子育てのありようの変化に加え、コロナ禍による「子育てをめぐる環境・意識の急激な変化」もあいまって、子育て支援の現場では、子育ての現状に大きな変化が起きていることを日々実感しています。子育て支援のゴールが、子どもたちが健やかに育つ社会にあることに変わりはないとはいえ、子育てのスタイル多様化、それに伴うニーズの個別化、また、子育て当事者と支援との接点の希薄化、リアルな体験の大幅な欠如などといった現状をふまえ、当法人としては、これまで前提としてきた課題意識や進めてきた支援のあり方をいったん置いて、原点に戻る必要もあることを痛感しています。

### （2）子育て家庭が拠点支援につながらないことが広く課題化している現状

国の取組みとして「地域子育て支援事業」がスタートして約20年がたちました。当該事業がスタートした当初は、それまでなかった子育て支援拠点をはじめとする「親子の居場所」の必要性を社会的に認知してもらうことが課題で、当法人でも、常設を問わず、ひろばの開設や親子のサークル活動、イベント開催等、様々な形を通して「居場所づくり」に取り組み、成果を積んできました。そのような居場所の必要性が社会的に認識されるようになり、また、親子にとっても居場所での支援がようやく子育ての日常の一部となってきたところで、当法人では「居場所に来づらい親子」への支援を課題として重点をおくようになりました。より個別的な支援も実現できる場として「ブーケのおうち」を開設（2021年度末にて事業中止）したのもその取組みの一環でした。

しかしながら、コロナ禍を経て、私達は課題の変化に直面していると感じています。前述したコロナ禍での子育ての現状—子育てのスタイル多様化、それに伴うニーズの個別化、また、子育て当事者と支援との接点の希薄化、リアルな体験の大幅な欠如などを鑑みて、居場所で提供される支援が届きにくい子育て家庭というのが、もはや全体的な問題となっていると推察します。つまり、これまで課題としてきた「居場所に来づらい親子」に加えて「そもそも居場所を知らない、来ない親子」が大多数化している状況が生じており、「居場所につながらない」ことは、もはや一般的な課題になっていると考えざるを得ない現状にあります。したがって、居場所づくりを軸に活動をしてきた当法人としても、居場所の意義を深めていくことと同時に、知ってもらい、つながってもらうための働きかけに再度力を注いでいく必要を感じています。

### (3) 子育て支援のニュースタンダードという考え方

コロナ禍は、オンライン上での情報収集や人との交流といった、便利なツールを一気に普及させ、それは距離のハードルを取り払い広くつながるということを可能にしてくれました。子育て中に居場所がなかった時代とは異なり、リアルな居場所とつながらないことが即「孤立」しているとは限らないとも言えます。けれども、あらためてリアルな機会が戻りつつある今、私達はリアルでの体感をともなう経験や時間、人とのつながりなどが、オンライン上とは異質なものであることをあらためて実感することも多くなっていると思われまます。

本年度においては、多様な人との交わりの中で、葛藤も含めたリアルな体験に揉まれながら、おとなも子どもも学び、成長していける子育て中の居場所の機能を今一度構築し直したいと思えます。そのために、まずは足を運んでもらうための取組みから地道に取り組む必要があると考えています。子育てのスタイル多様化、それに伴うニーズの個別化に対応しながら、新たな視点で子育て家庭との接点をあれこれと多様に作り出していくこと、おとなにも子どもにもリアルに出会う、感じる、経験するなどの機会を意識的に提供していくことに、今しばらく重点をおき、取り組んでいきたいと考えています。

アフターコロナにおける様々な変化に寄り添うためには、これまでの支援の続きを再開する中でも、新たに積み上げなおす、という視点が求められると考えます。これを「子育て支援のニュースタンダード」を構築していく作業とし、取組みの中で意識をしていきたいと考えています。コロナ禍以前、当法人では、量より質、広さより深さと、より個別化へと取組みを移行しつつあったところではありましたが、今一度、子育て家庭との接点づくりに地道に取り組む、再度小さなつながりを積み上げ直すよう努めます。

## 2 事業実施に関する事項

### 特定非営利活動に関する事業

(単位千円)

事業名	実施回数	場所	対象・内容	予算
◇川西市受託事業 アステ市民プラザ子育て支援ルーム	年 347 回	アステ 市民プ ラザ	就学前親子を対象とした 相談・交流等の居場所	6700
*ベビー&プレママルーム	年 12 回		産前産後 8 か月までの親子を 対象とした交流の場	
*パパひろば	年 12 回		男性保護者と就学前までの子 を対象とした遊び場	
*親子すくすくセミナー	年 3 回		子育て中の保護者を対象とし た子育て講座	
*子育て支援拠点三者ミーティング	年 12 回		子ども支援課所管拠点担当者 定例会議	
*子育て支援拠点連絡会	未 定		市内全拠点担当者によるネッ トワーク活動	
まちの子育てひろばよちよちブー ケ	年 12 回			就学前親子を対象とした子育 てひろば、親子イベント
(新)ハーフバースデー	年 11 回		生後 6 ヶ月の子と保護者を対 象にした交流の場	80
ハローベビーコンサート	年 3 回	アステ ホール	プレパパプレママ、乳幼児を対 象にコンサートを開催	175

(新)垣根のないコンサート(仮)	年1回	等	子どもたちにコンサートの体験機会を提供	
(新)児童書の寄贈(仮)	年1回	—	子どもたちに児童書(出版社からの寄付)を贈る	3
◇NPO法人チャリティサンタ主催事業 ブックサンタ事業への参画	年1回	未定	クリスマス体験の少ない子ども達にサンタからの絵本を贈る	3
◇川西児童館協働事業 親子で遊ぼうDAY	年23回	川西児童館	1~3歳の子と保護者を対象とした遊び場	100
◇川西公民館主催事業 親子教室ぐるんぱへの講師派遣	年2クール	川西公民館	幼稚園入園前の子と保護者を対象とした親子教室	65
ブーケ通信	年1回	—	法人活動を広く知ってもらうための通信の作成	15
◇川西市主催事業 かわにし子育てフェスティバルへの参画	年1回	キセラプラザ	市内の親子を対象とした子育てイベント	10
(新)育ちあいサポーター事業			サポーターの活動促進の取り組み	※250
*サポーター交流会	年1回	未定	サポーターの交流・親睦の機会	20
*サポーター研修会	年2回	未定	サポーター等支援者を対象とした研修の機会	20
ひょうご子育てコミュニティへの参画			兵庫県下の子育て支援活動団体・市町村・県のネットワーク活動	—
*役員会・幹事会	年12回	ひょうごボランティアプラザ	役員・幹事による定例会議	—
*子育て支援メッセ	年1回	未定	県下の親子を対象とした子育てイベント	—
あいまる会への参画	年12回	パレットかわにし	福祉の多様な分野団体のネットワーク活動	—
◇認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク主催事業 オレンジリボン運動啓発活動への参画	年1回	川西能勢口周辺	地域の人を対象に児童虐待防止を啓発するグッズの全国一斉配布	—

### 3 事業実施体制に関する事項

#### (1) 会議に関する事項

通常総会 5月25日(木) 16:30~17:15 アステ市民プラザマルチスペース2

理事会 5月、10月、3月

監査 4月

#### (2) 事務局体制

メンバー 下村亜矢子(事務局長)・柏村千尋・小川美穂(会計)・藏原亜紀

事務局ミーティング 毎月1回他随時

#### (3) 助成金

未定

#### (4) その他

川西市子ども若者未来会議委員

社会福祉法人 川西市社会福祉協議会理事/川西市まちづくり公社理事

ひょうご子育てコミュニティ幹事役員/神戸新聞社「すきっぷ」運営委員